

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営理念

安全・安心を基本として、ユーザーに信頼され、愛され、感動される商品・サービスを提供することで、社会になくてはならない企業として貢献する

売上高
362億円

営業利益
11億円

ROE
5%

ROIC
4%

② 中長期の経営戦略

1. 「変革」と「創造」

IWS確立、働きがい向上、組織風土変革、能力開発環境構築で経営環境の変化を克服

3. 「デジタルトランスフォーメーション」

DX推進で顧客価値創出、業務効率化、スマートファクトリー実現による競争優位性確立

2. 「選択」と「集中」

魚肉たんぱく製品の強み活用、主力商品リニューアル継続、本社第二工場合理化・省人化

4. 「新規事業」

水産練製品・惣菜事業、きのこ事業に「第3の事業」を加え主力3事業構築を指向

③ 対処すべき課題

① 国内市場の縮小対応

- ・ 少子高齢化加速で出生数約68万人、過去最少。市場は横ばい～縮小傾向
- ・ お客さまニーズの多様化に対応し付加価値向上と商品開発を継続
- ・ サステナビリティ強化でお客さま変化への対応

② 原材料・エネルギー価格高騰

- ・ すり身など原材料価格の高止まり。副材料・エネルギー価格も高い状況継続
- ・ 生産年齢人口減少による労働力不足で省人化・FA導入が急務
- ・ 2024年7月マーケティング開発本部設置で顧客視点の一気通貫体制構築

③ 海外事業の課題と機会

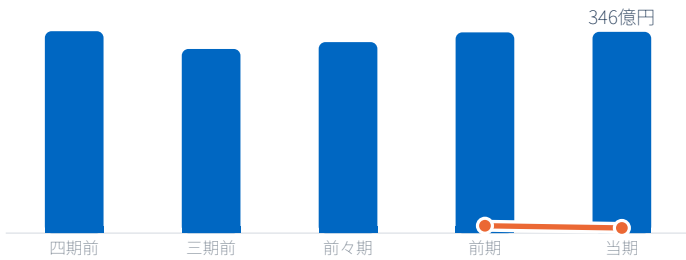
- ・ 2024年12月インドネシア合弁会社を連結子会社化し出資比率引上げ
- ・ 米国相互関税、中国による日本産水産物輸入停止の影響に注視が必要
- ・ 健康志向高まりから米国・西欧・東南アジアでの需要拡大が期待される

面接で使えるポイント

- ・ 30年後のビジョン「ICHIMASA30ビジョン（2045年度）」で世界中に日本の食で貢献するグローバル企業を目指す
- ・ 出生数約68万人の少子高齢化下で、DXと省人化で生産効率化・競争優位性確立に取り組む
- ・ 2024年7月マーケティング開発本部設置で顧客視点の商品開発を一気通貫させ配荷増加を目指す

証券コード 2904

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
346億円営業利益率
2.6%財務健康度
30点 / 100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 36.6（当サイト算出の参考指標）

平均年収
429万円

食料品内 120位/120社

平均年齢
40.2歳

食料品内 85位/121社

平均勤続
12.8年

食料品内 87位/121社

女性管理職
11.1%

食料品内 51位/106社

男性育休
100.0%

食料品内 34位/92社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: 一正蒲鉾(株)【2904】：決算情報

